

逝ける文豪

マクシム ゴールキイ の 教訓

龜井勝一郎

一七

「晝てある夜、セスターのイエベ・ベンコーラーの部屋であつたレニンは、サイ・ド・アロウエインの演奏でベートヴァンのソナタを聴いてかう言つた」

「私はアバシヨナよりいゝもの

は知らない。これから毎日だつて聴くよ。悟べき、人間のもとには思へない音樂だ。私はいつも、微りなもつて多分ナイ

一ダの小供のやうな微りなもつて、あらうか——人間はこれ程

の奇譲な行ふ事が出来るんだ

考へてあるんだ」

そして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰の頭も撫でること

が出来ない。手も嘴も切られて

をして彼は眼なしめで微笑しながら、餘快さうでなくつけ足した

「だが——毎々、音樂を聞く事

が出来ない時があるよ。精神に

障るんだれ。愛すべき戯談を言

う。新しい文學を建設すること

は出來ない。しかし、魅力は魅力だ。藝術

の敵異つて、戰ひのうちに自己

の血族を感するのである

地獄の中に生きてゐて、かうい

ふ美を創ることが出来る人々の

頭を撫でたくなるんだ。ところ

が今日では、誰

女性の實は……

貌容より氣質の優美

天性の良質を培ふ處に

眞の美が現はれる

馬子が女性の美を評價しますには、たゞ容貌や姿勢の優れてゐるといふ丈でなく言葉使い動作に至るまで仔細に検討して其美で始めて美人だといふ断定を下すやうであります。ですからかうして窓の外へ見ても美人は誰が見ても美人で、いゝなさいふ聲が響くのであります。

む人もあり、又厭惡のたの良いと見る人もあれど、愛さずの良いとする人もあり、明瞭なのが好きと云ふ人もあるが如きの

万別さ

云つて可いのであります。が、併し此の

心の美

にヨリ多く重きを

過ぎたら

馬子の皮をむいて丸ごと剥

心の美

にヨリ多く重きを

過ぎたら

馬子の皮をむいて丸ごと剥

心の美

にヨリ多く重きを

過ぎたら

馬子の皮をむいて丸ごと剥

心の美

にヨリ多く重きを

過ぎたら

馬子の皮をむいて丸ごと剥

戀の花は

恋は戯れにあらず

働く者の上にこそ!!

どこで咲くか?

戀は戯れにあらず

働く者の上にこそ!!

どこで咲くか?

戀は戯れにあらず

働く者の上にこそ!!

恋は戯れにあらず

働く者の上にこそ!!

恋は戯れにあらず

働く者の上にこそ!!

馬子が女性の美を評價しますには、たゞ容貌や姿勢の優れてゐるといふ丈でなく言葉使い動作に至るまで仔細に検討して其美で始めて美人だといふ断定を下すやうであります。ですからかうして窓の外へ見ても美人は誰が見ても美人で、いゝなさいふ聲が響くのであります。

む人もあり、又厭惡のたの良いとする人もあり、明瞭なのが好きと云ふ人もあるが如きの

馬子が女性の美を評價しますには、たゞ容貌や姿勢の優れてゐるといふ丈でなく言葉使い動作に至るまで仔細に検討して其美で始めて美人だといふ断定を下すやうであります。ですからかうして窓の外へ見ても美人は誰が見ても美人で、いゝなさいふ聲が響くのであります。



話のビカ

偉大なる哉

カビの恩恵

東洋人はカビ

利用の名人?

偉大なる哉

カビの恩恵

東洋人はカビ

利用の名人?

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

軌道に乗つた日會

九件を異議なく可決
「基礎工作から設立へ一步」

強化日會を目指す三十三委員會は既報の如く、去る十一日七時から日本俱樂部に集合開催したが、協議事項は大體左の如く決定して午後十一時散会した。

一、會則案の修正追加の件

二、施行細則に關する件

三、會員募集に關する件

四、會成立の如く決定して午後十一時散会した。

五、會則案の修正追加の件

六、施行細則に關する件

七、時應守附金の募集及び會費納入に關する件

八、舊日會事務を實行委員に引取る件

九、島崎、有島氏の歡迎並に講演開催に關する件

十、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十一、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十二、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十三、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十四、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十五、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十六、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十七、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十八、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

十九、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十一、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十二、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十三、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十四、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十五、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十六、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十七、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十八、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

二十九、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十一、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十二、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十三、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十四、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十五、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十六、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十七、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十八、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

三十九、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

四十、當中書記の採用は殆んど確実に採用することとなり候補者に中村通之氏が擇ばれた

ノロ線の椿事

死者一名重輕傷數十名
幸に邦人乗客に怪我なし

夫を繰り出し救急車を現場へ派遣

するなど非常な混雑を極めたが、

乗客は中繼列車により上下連絡を

つけ貨物車は一時杜絶となつた、

原因は轍轍手の消失によるか、さ

うかは今のところ不明である、因

に同一列車には邦人乗客もいた幸

に一人の怪我人もなかつた由

話で寄附を申し入れる方や、又

募集成績上乘

感激に満ちた如くサンバウロ裁縫女

既に報じた如くサンバウロ裁縫女

募集成績は看板を奏し(今日迄、

既に數コントロスの寄附が集まり上

話で寄附を申し入れる方や、又

在満皇軍慰問基金

北大醫學士

リース市ゼンチアンアブ

